



東日本
大震災で
被災した
岩手県大
槌町で、

町出身の理学療法士、元持幸子さん(36)の写真、仙台市が9日、AMDA本部署務局で被災地の現状を報告した。

国際医療援助団体「AMDA」(岡山市北区)の嘱託職員として活動している同

東日本 大震災

元持さんは震災発生から約1週間後の3月19日から4月20日までの間、同町の避難所で医療活動や支援物資の配達などに従事。現在も週末などに定期的に現地を訪れ、活動を続けている。

元持さんは、「被災地のライフラインが復旧し、生活リズムが再構築されつつある」と説明。地元祭りが開かれるなどし、「パワーが充電され、自分たちで生計を立てる方向に目が向き始めた」と報告した。

一方、津波で地盤がゆるんだことから、「台風や豪雨による二次的災害が心配」と指摘。また、「被災者が自分の土地で根を張るための産業や医療支援が必

要」と話した。